

◆団体基本情報

No.	18	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団		
所在地	〒980-0012 仙台市青葉区錦町一丁目3-9						
電話番号	022-225-3934		FAX番号	022-225-4238		所管 部局	文化観光局 文化振興課
団体ホームページ	https://www.sendaiphil.jp/						
代表者職氏名	理事長 高橋 宏明			設立年月日	平成4年4月1日		
資本金・基本財産	1,211,057 千円		市の出捐額(割合)	1,000,000 千円 (82.6%)			
設立目的	交響管弦楽の演奏により、音楽文化の振興を図り、芸術文化の向上に寄与することを目的とする。						
事業概要	オーケストラによる演奏事業の実施						
評価対象決算期	令和3年4月1日～令和4年3月31日						

◆人員等の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①常勤役員数	4 人	4 人	4 人
うち市派遣	1 人	1 人	1 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	57.5 歳	59.0 歳	55.8 歳
③常勤役員平均年間報酬	7,450 千円	7,451 千円	6,545 千円
④職員数	91 人	88 人	86 人
うち市派遣	1 人	1 人	1 人
市退職者	4 人	5 人	3 人
⑤職員平均年齢	48.8 歳	49.8 歳	49.9 歳
⑥職員平均年間給与	5,171 千円	5,021 千円	5,282 千円

◆主要財務データ

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①当期経常増減額	25,799 千円	113,007 千円	12,714 千円
②当期経常外増減額	800 千円	778 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	26,527 千円	113,706 千円	12,630 千円
④一般正味財産期末残高	△ 47,748 千円	65,958 千円	78,588 千円
⑤指定正味財産期末残高	1,224,503 千円	1,220,613 千円	1,211,057 千円
⑥正味財産期末残高	1,176,755 千円	1,286,571 千円	1,289,644 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①市からの補助金	320,490 千円	322,257 千円	317,340 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	376 千円	550 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	35.08 %	37.23 %	37.38 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和3年度事業費
自主事業（自主公演）	楽団の基本事業である定期演奏会9回14公演及び特別演奏会6日6公演（新型コロナウイルス感染症の影響により1日2公演中止）	78,914 千円
依頼演奏会	地方自治体、企業及び団体などからの依頼を受けて演奏する事業44日55公演（同18日20公演中止）	140,342 千円
室内楽	弦楽四重奏などの小編成で行う依頼演奏会101回	10,417 千円
ジュニアオーケストラ事業	仙台市の音楽文化の一層の振興と発展を図ることを目的とした事業の受託業務	20,454 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度に引き続き依頼演奏会の公演数は大幅に減少しているが、自主公演は、年度当初の2公演を除き継続的に開催することができ、入場者数も回復傾向にある。</p> <p>また、青少年等への普及・指導等では仙台ジュニアオーケストラの指導にあたるとともに、2年連続で中止となったオーケストラ鑑賞会の代替公演として、室内楽による学校訪問ミニコンサートを小学校67校で開催するなど、機会提供に力を入れた。</p> <p>今後も感染症対策を万全に行い、音楽の素晴らしさを届ける活動を継続し、楽都・仙台の推進に貢献していく。</p>	<p>感染症の影響が長期化する一方、感染症対策と両立する社会経済活動の継続が求められるフェーズに移行しているなか、当楽団はコロナ禍でも安全に配慮した演奏活動を継続するための知見を培い、市民のニーズに応えるべく演奏会の開催に努めている。引き続き幅広い層にクラシック音楽鑑賞の機会を提供し、楽都・仙台の推進の中心的役割を担っていただくことを期待する。</p>
2. 業務・組織管理	<p>平成30年度当初から、総務部・事業部の業務分掌を見直し、営業・広報・演奏事業の連携をさらに強化・充実させた営業推進体制とし、収益向上を目指すための簡素かつ効率的な事業運営体制を構築している。楽団員については、引き続き、定年後の再雇用を行うとともに、楽団員数規模の適正化を中心とした効率的な組織運営を図りながら、楽団の音楽的水準の向上に努力している。</p>	<p>「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づき、楽団員数の適正化及び事務局の営業推進体制の効率化が着実に進められている。今後も安定的な業務・組織管理に努めていただきたい。</p>
3. 財務状況	<p>令和3年度は、前年度に多額の収入があった寄付金や雇用調整助成金等が大幅に減少したが、自主公演の入場者数が回復傾向にあることや、コロナ禍における文化芸術活動に対する支援事業であるアートキャラバン公演を受注したこと等により事業収益が増加し、経常増減額は黒字となった。</p> <p>しかしながら、令和4年度も当初予算時点では、依頼演奏会の公演数が減少（仙台国際音楽コンクールを除く）しており、将来にわたる事業収益の安定的な確保は見通せていない。</p> <p>引き続き楽団の人員体制の適正化による費用の圧縮を中心とした経営改善の取り組みを進め、持続可能な財務基盤の確立を図っていききたい。</p>	<p>令和2年度に続き、3年度も経常増減額は黒字となったものの、感染症に起因した国の委託事業や助成金、寄付金等による要因も大きい。今後も恒常的な収入として期待できるものではないが、感染症が完全に終息するまでは、国の委託事業や助成金等の積極的な獲得に努め、終息後を見据えた収支均衡の策を検討いただくとともに、依頼公演や協賛金獲得に向けた営業努力を行っていただきたい。</p>
4. 今後の方向性及び課題	<p>コロナ禍の中、令和3年度も国の支援事業等により、経常収支は黒字となったものの、財団・楽団が、仙台市の貴重な文化的資源として今後も存続していくためには、持続可能な財務基盤の確立が欠かせない。そのため「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づく各種の取り組みを着実に進める必要がある。とりわけ、法人サポート会員（賛助会員）の増加や有料入場者率の向上に力を入れるとともに、各地の自治体、教育委員会、ホール等に対して新たな演奏会の企画・提案を行うことや、企業・団体からの協賛等の協力を依頼しながら継続性のある公演の確保を図っていくほか、楽団員数規模の適正化など効率的な組織体制を目指す必要がある。</p> <p>引き続き、顧客サービスの向上により楽団への継続的支援を呼びかけるとともに、新規顧客の開拓のため、SNSや動画配信等の充実にも取り組んでいきたい。</p>	<p>「新たな取り組み」に掲げる令和9年度までを目途とした楽団員数の適正化や、仙台国際音楽コンクールの開催年を軸とした3年間で収支を均衡させる予算編成などに引き続き努めていただきたい。</p> <p>また、魅力的な楽団づくりは各種会員の顧客満足度の向上のみならず、地域資源として仙台の魅力向上にも寄与するものである。当楽団には楽都・仙台を代表する管弦楽団として、市内外問わず、活動の場を広げ、クラシック音楽に親しめる機会の創出や愛好者の拡大に寄与していただきたい。</p>